

昭和二十一年九月

関口 16

送りがなのつけ方(案)

公文用語の手びき 第一分冊

文部省教科書局調査課
国語調査室

送りがなのつけ方

目次

はしがき	一
通則	一
用例	五

送りがないのつけ方

はしがき

一 この「送りがないのつけ方」は、國語を書き表はすのに漢字を用いる場合、単語としてどの部分を漢字で記し、どの部分をかなで示すかについて、現代の口語文に適するやうに基準を定めたものである。

二 この「送りがないのつけ方」は、通則と用例との二部から成る。

三 通則は、概ね単語の品詞別に従って、できるだけ簡明なものとした。

四 用例は、それぞれ語の五十音順に掲げた。漢字を用いないことによつて送りがないの問題のなくなるものも、あげておいた。

五 用例の中に掲げてない語の書き表はし方は、通則によつて判断するものとする。また、用例の中に漢字を用ひてある語について、その漢字をかなに改めて書くことは、もとより好ましくない。

通 則

第一 動詞の送りがない

一 動詞は、活用語尾を送る。

〔例〕 書く。 起る。 受ける。 研究する。

遊ぶ。 押へる。 捕へる。 振る。 向ふ。 分る。
荒す。 起る。 盡す。 積る。 果す。
基ふ。 司ふ。 實ふ。 伴ふ。 確める。

二 活用語尾を送るだけでは、誤読難読のおそれのある動詞は、その前のま音節から送る。

〔例〕 (イ) 動かす(動く) 傳はる(傳へる) 肥やす(肥える) 及ぼす(及ぶ)
減ぼす(減じる) 加はる(加へる) (自動・他動の對應のあるもの)
(ロ) 表はす 著はす (音讀されるおそれのあるもの)

三 他の品詞と関係する動詞は、その品詞の送りがないを基準としてつける。

〔例〕 (イ) 近づく 重んずる 薄らぐ 怪しむ 苦しがる (形容詞と関係のあるもの)
(ロ) 先だつ 懐たはる (名詞と関係のあるもの)

四 動詞と動詞と複合したものは、前にも後にも送りがないをつける。

〔例〕 譲り渡す 届け出る。

第二 形容詞の送りがない

一 形容詞は、活用語尾を送る。

〔例〕 白い 強い 無い

二 語幹が「し」で終る形容詞は、「し」から送る。

【例】 美しい 著しい 正しい

三 活用語尾を送るだけでは、誤讀・難讀のおそれのある形容詞は、その前の音節から送る。

【例】 大きい 小さい 暖(温)かい 冷たい 細かい

四 動詞と関係のある形容詞は、その動詞の送りかなを基準としてつける。

【例】 望ましい 願ほしい 喜ばしい 恐ろしい 頼もしい

五 動詞と形容詞と複合したものは、その動詞にも形容詞にも送りかなをつける。

【例】 聞き苦しい

第三 副詞・接續詞の送りかな

一 副詞・接續詞は、最後の一音節を送る。

【例】 殊に 必ず 既に 常に 更に 但し

【例外】 又には送りかなをつけない。

二 「に」を送るだけでは、誤讀のおそれのある副詞は、その前の音節から送る。

【例】 直ちに

三 「かに」「やかに」「らかに」などのついた副詞は、これらを送る。

【例】 静かに 穏やかに 詳らかに

四 副詞・接續詞の語尾に、更に助詞・接尾語が加はって、別の副詞・接續詞となつてゐるものは、もとの副詞・接續詞の送りかなから送る。

【例】 必ずしも 若しくは

五 活用語と関係のある副詞・接續詞は、その活用語の語尾を送る。

【例】 始めて 絶えず 盛んに 従つて 並びに 及び

第四 名詞の送りかな

一 活用語から轉じた名詞(複合名詞とくむ)は、原則として活用語本来の送りかなをつける。誤讀・難讀のおそれのないものは、その送りかなの一部又は全部を省く。

【例】 (一) 動物 残り 苦しみ 生き物 値上げ

(二) 見合せ(合せ) 買出し(買ひ出し) 打合せ(打ち合せ) 取計ひ(取り計らひ)

(三) 伺 寫 調 答 願 話 登 手續 勤先 申込

二 形容詞の語幹に「み」「け」「は」などがついて名詞となつてゐるものには、これらのかなを送る。語幹が「し」で終るものは、「し」から送る。

【例】 重さ 正しさ 強み 寒け 惜しげ

三 数を数へる語尾の「つ」は、送る。

【例】 一つ 二つ 三つ 五つ 幾つ

備考 以上に掲げた以外の品詞、代名詞・連体詞・感動詞並びに助詞・助動詞は、漢字を用ひないのを原則とする。

用例

振る

古めかしい 古い

別に 減らす 減る 減す

誇る 誇

ほころはす ほころびる

ほださる ほだす

始まる

ほめかす ほめく

振出す

申し合はせる 申合事項

申し込む 申込書

曲げる 紛らわしい

紛らす 紛れる

混ぜる 混ぜる

交はる 交へる

またまた

またまた

待合せ 待合せ室

待つ

まっ

全く 全うする 完うする

惑はす 惑ふ

見合せ 見合はせる

見送り 見送る

見送り 見送る

見込 見込む

短し

見出し

乱す

みだりに

見積り 見積る

見通し 見通す

みなす とみなす

見逃がす 見逃がす

よみする

喜ばす 喜び

喜ぶ 喜び

弱まる 弱い 弱める

わが國 泣く

分つ 分ける 分れる

別れる

分け目

渡し 渡し船 店先渡し

渡り 不渡り 不渡手形

わたる になたる になたつて

わづか わづかに

わづらわしい わづらはす

わびしい わびる

笑ひ聲 笑聲(セウセイ)

笑ひ話 笑話(セウワ)

割当 割り當てる

割当 割り當てる

描く われら

見舞 未舞 未舞 勘定

向かい 向く 向

むしろ 結ぶ

むづかしい

睦ましい

むなし

群がる

目回す 回る

珍しい

若し 若しくは

もたらす 持ち合はせる

持越 持越

用ひる 持分

もつて 最も

もつとも (尤もは用ひない)

専ら

基く

求め 求める

もとより

物知り

物好き

物笑ひ

燃やす 燃える 燃す

燃やす 燃える 燃す

以上約一三五〇語